

5-6

演題	誤嚥性肺炎による入院を減らしたい！！
副題	～食の幸せを守る管理栄養士の、この指とまれ～

誤嚥性肺炎

法人名	社会福祉法人 敬心会
施設名	特別養護老人ホーム 栗原ホーム

発表者名 (職種)	増田 真希子 栄養士
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	座間市栗原中央 6-1-18
TEL	046-251-1166
FAX	046-251-9300
メールアドレス	honbu@zama-keishinkai.or.jp
URL	eiyo@zama-keishinkai.or.jp

今回の発表施設 またはサービスの 概要	座間市にある長期入所 50 名ショートステイ 6 名の自然に囲まれた特別養護老人ホームです。直営方式の厨房では、地元野菜を使用した手作りのお食事やバリエーション豊富なおやつにこだわり、「日本一のお食事」を目指しています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

高齢者の入院の上位を占める誤嚥性肺炎は当施設でも毎年発症します。管理栄養士を中心に栄養マネジメントを通して他職種とわかりやすい情報共有とより効率的な会議を行うことで、食事形態の適正化、食具の見直しなどを行い誤嚥性肺炎の入院を半減することを目的としました。

取り組んだ課題

高齢者の誤嚥性肺炎での入院が多く、2024 年の介護報酬・診療報酬の同時改定でも誤嚥性肺炎の治療期間の長さは他職種での介入が適切に行われていないことが原因の一つと指摘され、医療介護の一体的な取り組みを進める方針を立てています。当施設でも過去 4 年間の入院原因を調べたところ病因の上位であり、減らすためには、栄養マネジメントの実施方法を見直し、原因を追求することが必要だと考えました。医師・歯科医師との連携を行っていますが、ご利用者様の日頃の様子の変化から早期発見をできることが誤嚥性肺炎の抑制になるのではないかと考えました。

具体的な取り組み

栄養マネジメントでは、ご利用者様の普段のお食事を観察しスクリーニングを行い、栄養マネジメント会議で他職種での検討を行います。内容が食事摂取量や体重の変化、ムセの有無の確認等であり、誤嚥性肺炎を予防するための内容としては必ずしも焦点が当たっているわけではありませんでした。また、多職種がご利用者様の食事時間中に同時に集まることも容易ではありません。そこで食事摂取の様子を数分の動画を撮り、会議で視聴し必要なポイントを他職種が同時に観察できるようにしました。加えて評価シートを作成し、動画では得られない情報を記入することで、様々な角度からの誤嚥性肺炎のリスクの評価が可能となりました。

活動の成果と評価

動画を視ることで、職員からは普段じっくり見ることができないご利用者様の食事の細かな様子に気が

付けると好評です。今までは記憶を辿りながら行っていた会議では気がつかなかった問題点に気がつくことができるようになりました。具体的には短期間の間に誤嚥性肺炎での入院を複数回繰り返すご利用者様に対して、動画での食事観察と評価シートを作成しましたが、いずれも問題点はなく咽頭残渣が就寝中に気管におちているのではないかと推測となりました。食事時の姿勢と食具の見直しに加え、付着性が低くまとまりやすいゼリーを食事中と食後に摂食していただいたところ、誤嚥を起こすことなくお過ごしです。誤嚥性肺炎による入院も例年と比較すると令和 4 年度は半減することができました。

今後の課題

動画を用いることと、評価シートの作成による他職種での要点を絞った会議によって誤嚥性肺炎を減らすことはできましたが、これだけでは具体的な飲み込みの状態までがわかるわけではありません。むせを伴わない不顕性誤嚥が肺炎の原因になることも多いため、今後は頸部聴診による早期発見にも力を入れていく予定です。また当施設に導入している「眼リスキャン」のデータの解析によって誤嚥性肺炎発症の予防につながるかの検証を進めていきます。